



Nivo-Zの精度と作業性が信用度を生んでくれる 設計と施工が一体化した業務で、オートフォーカスや ノンプリで測量業務は1/3に効率化!

株式会社ウメテツ建設 近藤 直一様



株式会社ウメテツ建設様がNivo-Zを現場で活用されていると聞き、滋賀の本社で話を伺った。同社の創業は明治35年5月と歴史が古く、板金業から鉄工所へと成長、現在では地域に密着した建築・土木の現場で高い評価を得られている。Nivo-Z導入の目的と効果をお聞きした。

自社で設計から施工・許認可まで請け負える 工夫を通じて蓄積した独自のノウハウが強み。

株式会社ウメテツ建設は、「梅村鉄工所」という社名で鉄骨工事から事業が始まりました。当初は自前の工場では鋼を溶接して自分達で建てに行ったり、マーキングを貼ったりしていました。お客様の注文が木造住宅や設備工事、土木工事まで増えていき、現在では建築が7割、残りの3割が土木と水道工事という比率で仕事を頂いております。建築のお仕事ですが、店舗や自動車修理工場、最近だと牛舎サイロまで多岐に渡っています。

自社に設計施工部門がありますので、お客様からの依頼で難しい案件も許認可含めてフォロー出来るところが強みです。金額勝負になる入札案件でも、自分たちなりに工夫してコストを抑え、ノウハウを蓄積していくのが社員の励みになっていますね。



設計図のない案件もNivo-Zで現場を計測、 施工に無駄がなくなりお客様の信頼も向上。

弊社では設計に基づいて施工する公共工事に加え、農業用水管の敷設替えを始めとする設計図面の無い特殊案件も多く、設計の前段階で、トータルステーションNivo-Zを使ってポイントを測りに行きます。実測すると、此処と此処で何度の継ぎ手が必要だというのが分かり、飛躍的に設計精度が上がるので施工に無駄がなくなりますね。

難しい案件と言えば、竹藪を駐車場にしたいという依頼がありました。竹藪の面積を測るのは、いささか難しい。この案件ではNivo-Zでポイントをおさえて図面に出して、お客様に「この図面の通り700㎡ありますよ」と説明しました。伐採して土地を整地してから考えるのではなく、事前に図面で打ち合わせ出来るのがポイントです。工事をする前に、いくつかプランが練れるのでお客様には喜ばれました。こっちに何列止めて、あっちに何列止めて、間は何m





取れるから、車はこの導線で出入りできます、お隣の家の方にマフラーが向かない配列はこうです、ときちんとしたカタチがお見せ出来ます。具体的に会話できるのでお客様も費用対効果が考えやすい。測量機で測って図面化しているので、この面積で間違いないですよ、とお客様に言うと、ものすごく信用度が上がりますね。

**ノンプリ機能が便利。作業性が全く違う。
巻き尺で測っていた時代には戻れない。**



私を含めて技術者が高齢化しており、視力が落ちてきているので、器械が自動で焦点を合わせてくれる機能には非常に助かっています。つまみを回しながらの合焦作業は、まず遠くを合わせ、次に近くを見てと、時間がかかる。オートフォーカスは、パシッと先に合わせてくれて微調整だけ済むので、全く作業性が違いますね。

それからノンプリ機能を使うと、仕事が格段にはかどります。例えば道路で管路の計画をしている時に、関係のない敷地や建物の中に入って測量は出来ませんが、Nivo-Zのノンプリ機能を使うと、建物の角にピントを合わせて、ピッとやると全部座標を拾ってくれ、後は会社に帰ってパソコンに取り込むだけで建物の配置関係も全て分かります。最初にお話した牛舎ですが、距離が非常に長い建物なので、巻き尺だとどうしても誤差が出る。柱芯をポイントごとにNivo-Zで計測すると作業が楽で正確です。もう巻き尺で測っていた

時代には戻れません。

建て方でもNivo-Zを使っています。建方はきちんと座っている基礎の上に鉄骨を建て付けるので、基礎の位置やボルトの位置を正確に出すことが重要です。建築工事と言いつつも、土木工事に近い作業ですので、Nivo-Zで要所ごとのポイントを出してやると、誤差0になってきて建方も円滑に行えます。

**測量したデータをその日に図面化。業務が1/3
まで効率化してお客様にも喜ばれています。**

Nivo-Zを導入して作業全体の生産性が上がりました。三分の一くらいにはなっています。午前中に現場を測りに行って、お昼に会社に戻り、



データを読み込んで、その日のうちにAプラン、Bプラン位は出来ます。翌日お客様のところに図面を携えて見積もりの打ち合わせに行くと、本当に喜ばれる。我々は精度が

信用度を生んでくれると考えています。普段から精度の高い器械できちんと計測し、現況を正直にお伝えしています。我々の様な小さな会社だと、小規模な現場が多いですが、Nivo-Zを使う頻度はこれからも増えてくると思います。

取材協力

株式会社 ウメテツ建設
土木部部长 近藤 直一様



株式会社 吉川測器

